飯田市

発行所
飯田市公民館
編集人
飯田市新聞委員会
印刷所　信州印刷ＫＫ
松本市巾上町353

災害復旧の査定決る

工事は緊急度の高い地区を優先

農林関係

農地復旧及農業用施設の災害復旧関係事業の農林省の査定は十月一パイをもって第七次の査定を終り、だいたい最終的な段階に入った。一般住民にとって一番問題な補助率の関係は、今のところ特別措置法が決っていないが、従来の農業用施設、六・五割、農地五割の率より云々出来ない訳ですが、災害がひどいので高率も考えられます。然し飯田市全部がその対象に入るという事でなく、今回は査定被災金額を被害関係農家戸数で割って出た金額が一定規準の補助率にあてはめられて割合が決るらしくしたがって各地の状況によって率が異ってくる結果が出て来るそうです。農業用施設については三十二水通り地元負担金はいらないが、農地復旧については従来の一割の地元負担金の線が考えられている。何としても歴史始っていらいの大災害であるため市農林課としては職員を充実して一日も早く復旧に着手すべく全力を上げている。第七次までの査定通過地区は次通のりである。

農業用施設

地区名	ケ所数
館田	41
座光寺	34
松尾	20
竜丘	47
川路	37
三穂	29
山本	30
伊賀良	113
下久堅	29
	380ケ所

農地復旧

地区名	ケ所数	面積
飯田	21	12.5 ha
座光寺	17	25
松尾	4	69
竜丘	3	0.15
川路	6	63
三穂	2	0.5.
山本	19	4.7
伊賀良	345	22
下久堅		6.1
計	111	202.95

農業用施設の綜額は十億六千万円合計約十七億円が査定を通過している。

土木関係

土木関係の査定は建設省が主で緊急度の高いものから順次査定に入っていて農林の様に終っていないが全てが公共用施設で地元負担金の心配もなく又査定通過地区は金額が国庫補助です。旧飯田市内で多少都市計画過程に問題が残っている様子ですがこれも当局の努力で日時が解決する様に思える。土木課としても緊急度が道路とか河川とか直接に影響ある事だけに復旧にはいち早く着手し連日連夜全力を注いでいる。

現在までの査定通過地区は

地区名	橋梁	道路	河川	都市計画
飯田	3	6	7	13
座光寺	3	3	1	0
松尾	1	0	4	0
伊賀良	2	1	1	0
山本	1	5	1	0
三穂	0	4	3	0
川路	1	2	2	0
竜丘	3	10	4	0
下久堅	0	8	0	0
計	14	39	23	13

総額、道路で二千四百万、橋千百万、河川で二億六千万、都市で四千七百万円です。

農林課関係の復旧見透については勿論緊急度の高い地区より優先されます。緊急度の高い地区の選定は農林課に於て技術面、経済面等あらゆる角度から検討して決定されますが農林省の予算割当てに限度がありますので市当局では全地区を一度に着工したい腹をもっていますが仲々思うにまかせない現状です。農地復旧については松尾、川路地区の様な大きなところは県営事業にし他は市直かつ事業として行われますが、原則として着工と同時に一割の地元負担金を市へ納入して頂く様になるそうです。農道、水路等につきましても勿論緊急度が高い訳ですが、来年の植付までに何とかまに合わせたいと日夜努力しています。

◎林務関係は今次災害の基因となるものでこれも悠久的復旧に着手されようとしています。

◎天竜川関係の堤防復旧は直接建設省の工事として既に着工されていますが今迄の様な蛇足の河川を幾分でもまっすぐ通そうと河川改修を含めて実施されている。

◎こゝで問題が残るのはダム対策関係で多くの被災者の人達が目前に迫った冬を一体どおすごして行くか直接生活権につながる事柄だけに真けんで補償費を一日も早く支給せよと叫んでいるが仲々話しが進まない現況です。何にしても災害はもうこりごりだという基本線を中心にして大きな団結が望まれる訳です。

写真は市道復旧　下久堅地区にて

論説

災害復旧にのぞむ

集中豪雨による大被害を受けてから四ケ月以上が経過して、市内各所それぐ〜に災害復旧計画の査定も済み、関係者への説明も行われて、いよ〜工事が始まりつつある。

災害直後の被害者や全市民が受けた大きなショックからして従来の小災害と違って被害範囲とその荒廃の状況からみて、とても自力だけでは復旧のメドがたたない。したがって、市や県が主体となって復旧計画を立て、国の予算で復旧することに異論はなく、またそうすることが賢明な方法であったといえる。

これにより市長のモットーでもある「禍を転じて福となす」のとおりにこれを契機として新しい町づくりへの出発点と考えたのだった。

しかし、公表された計画によると、地区によってはいろいろな問題を含んでいる。

なぜならそれは、ある地区では災害前の面積を三割も縮少しなければならないものだったり、天竜川の河床上昇によって冠水が年中行事化したような地帯が復旧工事というワクの為に従前のようにされたり、災害地の為今は立派な耕地が荒廃してしまうといったことが生れそうだからである。

とはいっても、昭和二十二年の旧市の目抜き通りが全焼した際の例でわかるように、大きな道路を開けたことが今日の繁栄を見たことからしても、遠い将来を見通した場合多少の犠牲は覚悟しなければならないといいたい。

土砂に埋没した耕地は整地した上に客土することにより復旧できるが、これに附随する道路や水路も農業の近代化、共同化することを考えなければ、より大きなより完全なものを作ることはこの機会に是非やらなくてはならない。これと同時に住宅の集団化も考えられようし、被災地域の中にある墓地、神社等の移転や団地化もむづかしい事態もあろうが、将来の発展の為には必ず踏み切らなければならないことだ。道路の整備、墓地の移転などには被災者や市民は充分協力しなくては復旧が円滑に進まないのではなかろうか。

次に復旧した土地への作物の作付けの問題がある訳だが、説明によると「災害復旧というものは、災害前の状態にすることであって改良事業ではない。従って、災害直前の栽培面積によってその比率が決められる」とされているが、水田は水田として、桑園は桑園として集団化はされようが、地目変換は原則として認められないようである。

だから、耕作者としては災害常習化しそうなこれらの土地は経営方式を変えようとするが、国家予算の来る二、三年後までは作付変換は認められそうにない。したがって耕作者としては三年後の時効を待って経営方式を変えねばならない情勢だ。

ともあれ、これらの計画の主力となった農林課も、この大規模た災害復旧計画に少ない技術者でたち向ったといわれる。これまでになった経過から見て、仮りに設計変更するとしたら農林省等への手続きや、設計書作りで二ケ月はかかるという。そうなれば来年の植え付けにはどうしても間に合わなくなり、被災者が苦しむばかりである。

被災者に共通していることは、一日も早く復旧してほしいと望むばかりだ。

この復旧には、大きな機械力で行われるとはいえ労働力不足が心配される。

地元としては、譲歩すべき所は譲歩し、協力すべき所は協力しないと復旧工事がむづかしいのではないだろうか。

社会問題を追求

市連青研究集会開かる

去る十一月十八、十九の両日飯田市中央公民館に於て第五回飯田市連合青年団の研究集会が百余名の仲間達が集って開催された。

司会者は主として各地区団の団長、記録は全女子で各副団長が当り、助言者は青年団ＯＢの人達であった。

開催主旨としては、第五回を迎えたこの集会では基本的な方針として青年の生活と権利を守り、平和と民主主義を斗い取る事を重点目標とした運動路線の上に立って、運動の一過程としての青研である事を最初に確認したいと冒頭にうたい、私達の身のまわりにある古さと斗うばかりでなく、大局的な立場で社会を逆行させる権力に対して斗い得る力強い青年運動として行くため、それぞれの運動を出し合い交流し合う中でより運動を発展させるための理論を組み立てることを第一の目標としたいと云っている。

どんな少さな問題でも、それが青年の要求から出ているかを、実際に行なわれた運動の中で明確にしそれを基礎にして何が重要であるかを色々な問題の中ではっきりさせて行きたい、との主旨を中心にして二日間に亘り熱心に話し合いがもたれた。

第一分科会は学習活動を
第二分科会は組織の問題を（Ａ）
第三分科会は組織の問題を（Ｂ）
第四分科会は女子活動を
第五、六分科会は社会活動を

それぞれ事前に各地区団の代表者より提出されたレポートを中心に研究討議し、問題点をみつけ出しそれを理論的に組立て発展させて行った。

その研究討議の過程で中心的問題は昨年の安保斗争の中で得た政治に対する考え方で、社会的な事柄が多く話し合われていた。

竣工は来年八月

やゝ遅れている市庁舎工事

六月二十七日の集中豪雨のため請負は終っていて着工するに多少問題のあった市庁舎工事も、八月その建設にかかった。

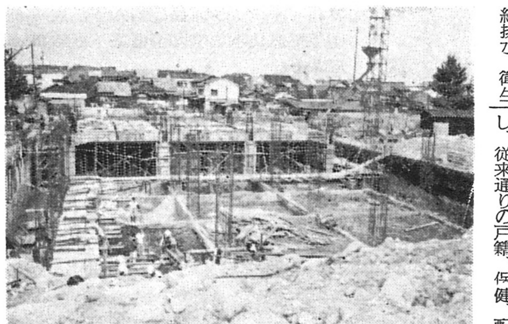
その後の工事は順調に進み、くっさくも全部終り、只今本館地下と議場一階の基礎工事が終り本館一階の床の工事にかかっているので鉄骨の組立て、コンクリートの打込等、その容姿の一部を表して来ている。

本館建設、電気、給排水、衛生の諸工事は、九、一四五万円で木下建設が、通信配管工事は三一〇万円で三和工業が請負い着々進められている。

郡市全般に亘って豪雨禍の災害復旧工事が進められているので、最近とくに骨材の不足が目立ち、当初予定した、砂利、砂等の資材が半分位しかまにあわないために当初予定した時期より多少遅れるのではないかと関係者は見ている。

合併以来地理的にも多少な不便と水道部、福祉事務所、土木課等がそれぞれ別のところにあって事務連絡等の不便等も、住民へのサービスとして解消される日も後十ケ月に迫っている。

尚市庁舎竣工の事務能率を考慮して十二月一日より市民課を設置し、従来通りの戸籍、保健、配給等の窓口を一本化して現市庁舎で発足する事になり幾分でも手数がはぶける様になる。



【写真は新市庁舎の基礎工事】

官民の相互理解と

飯田市社会福祉大会

第五回飯田市社会福祉大会は、十一月二十日午前十時から、中央公民で開催された。今年は、社会福祉事業法制定十周年に当っており、共同募金運動も発足以来、十五年を数え、これらを記念する意味も加わって盛大に挙行された。

法制定以来十年、この間社会福祉事業は大きな発展をとげているが、まだまだ充分とはいえず、市民の幸わせを更に増進せしむる為に最も効果的な活動を如何にすすめるか、せつせつたる実状を訴えながら同時に熱心な討議がくりひろげられた。

この日討議された議題は、

「社会福祉活動の促進はどうしたらよいか。」

「児童及び婦人の幸わせを高めるには……。」

「老人の福祉活動はどのように……。」「身体障害者の福祉を高めるにはどうしたら……。」

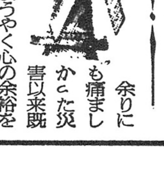
「災害地の福祉と環境衛生を進めるには……。」等が討議され、これら活動の推進向上の為には、為政者の政策を待つだけでなく、市民の一人一人の積極的な協力がなくてはならない事が叫ばれていた。

尚この日福祉事業功労者と団体が表彰された。

社会福祉事業法制定10周年記念
第5回飯田市社会福祉大会

【写真は盛大な福祉大会々場】

風車



余りにも痛ましかった災害以来既に四カ月余、ようやく心の余裕を取り戻しつゝあると云えよう。

しかしまだまだ立直りのできるまでには数多くの困難を予想しなくてはなるまい。だからと云って一日も早い復旧を望まぬ筈はなかろう。

周知の通りであるが、学び屋を失った川路地区の上学生は、竜丘学校と記念館に借屋授業を続けている。教師の立場も辛かろうが、第一生徒達が可哀そうだ。

学校問題は、この川路だけではない。川路、三穂のそれぞれの中学は、こゝ何年か先には単独での存続意義は殆んど失われる事が目に見えている。川路、三穂、竜江中学の統合は前から叫ばれているが災害以後当前の事ながらその気勢は大いに高められ、その敷地として川路地区の藤塚が選ばれ、目下その土地交渉が進められている。

土地問題、農民にとって生命の基礎たる農地、簡単に解決できるとは思わぬが、聞くところによれば土地の買収価格で大難航の様相を呈しているとか。

工場が誘置されるとか、何か出来ると云うと荒野でも土地価は急騰する。人間社会に欲はつきものであり否定はできぬが、こゝらが出来得るものを出来なくしている最大原因でもある。

統合中学も余り、リキんでいると〝夢破れたり〟の苦境におちいらぬとも限らない。

既に三穂では統合中学を三穂へ持って来いと、青写真の話まで出ているとか、大極的に見て川路に出来る事が一番望ましい。

市の理事者にくいさがるのが能ではない、もっと積極的な協力態勢が打ち出され早期に統合中学の実現を待ちたい。

各地区公民館便り

☆**伊賀良公民館**文化祭は十一月二十三、四の両日小中学校及農協を会場にして、雅友会作品展示会、花道展、盆栽展、生活の工夫展、生活資料展、災害写真展、小中学校学芸展、祭典統一の資料展家庭電気具展に弓道、囲碁、将棋、麻雀等の大会が開かれた。

☆**下久堅公民館**文化祭は昨年度の様な展示会は行なはずに青年演劇発表会と部落スポーツ普及講習会囲碁、将棋大会を二十二、三の両日開く。

☆**座光寺公民館**文化祭は二十二、三、四の三日間生花展と鉄斉及耕育展を開催。

☆**龍丘公民館**文化祭は二十五、六の両日青年演劇発表会と災害及自由写真のコンテスト、書画作品展館報百号記念展、老人会展、生花展、アンゴラ兎品評会、酪農展に囲碁、将棋、麻雀大会、映画教室自由チーム野球大会等が行われた。

☆**山本公民館**文化祭は二十五六の両日山本中学校を主会場に開催内容は青年演劇発表会災害写真展、松尾多勢子遺品展、原療道遺作展、中央道模型展、一般展示等が行われた

☆**三穂公民館**文化祭は十二月九、十の両日、素人演芸大会、写真展正宗得三郎展、三浦兆古展、農機具展、中学演劇発表等が行われる。

放線決定か？

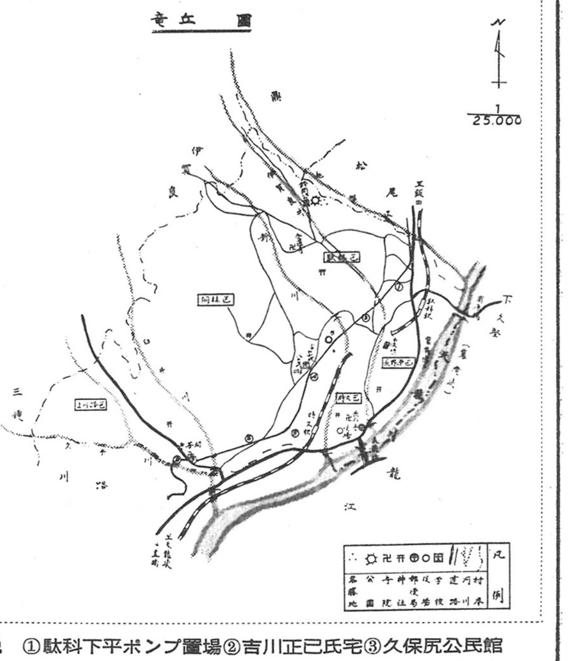
×…どこを通るか，と言うことで地区民の関心を集めている豊飯国…×
×…道の放線について編集部では建設事務所を尋ねて聞いたところ…×
×…一部の地域を除き，ほぼ決定しているようだ。……………………×

一部をのぞきほぼ決まる

豊飯国道その後の動き

国道の放線決定については多くの利害関係もからんで、幾多の難航を続けて来たが、其の後、関係地区での話し合いにより、今年の二月、地区内の意見調整がやっと出来、白紙で建設省にいっさいを一任することとなって、早期通過の機運も高まった。しかしすでに決まりつつあった放線も六月集中豪雨により、予定路線も冠水地域から上った新しい地帯への計画をたてなおさなければならなくなった。又水害による被害地帯からの家屋移転が国道通過地帯とからんで早期決定を望む声が強くなったそのようなこともあって、災害関係に多忙な建設事務所に変って、直接県が測量をおこない、検討が加えられて来たが、新川越橋地帯から殿外堰までと上川路金山地帯の二カ所がまだ問題とされているが、他の地点はほぼ確定していると建設事務所では云っている。発表は来年度事業もあり、今年度中にはあるものと思われる。

予定路線は、現在地から現道を一〇〇米進み、伊登屋付近から、駄科の下の火の見を通り、大井線で旧道に接し、吉川正己氏裏を通り、新川を一三〇米の橋で渡り前島広美氏横を通過、学校東側正門で市道一号線に接し、下平潔氏横を通過、殿外坦で帝通裏から、下平美喜氏前にむかって直線で進み上川路金山公民館上を通過、上川路公民館を通過、開善寺山門前を通り、御猿堂前から、川路へ久米川を渡ることになっている。放線が決定しても、オリンピックの為に予算的な問題で竜丘地域の全線開通は昭和四〇年後になるといっている。



説明　①駄科下平ポンプ置場②吉川正已氏宅③久保尻公民館④下平潔氏宅⑤帝国通信⑥下平美喜氏宅⑦開善寺山門⑧御猿堂

災害公営住宅御万堂上にきまる

明年三月完成

今回の臨時国会に於て特別立法の成立があり、国庫負担の裏付けも決まり、公営住宅の建設が具体化してきた。

竜丘地区へは前々から災害公営住宅の建設計画の話しがあったが、その敷地確保の点について難行していたところ、このほど自治協議会が中心となって交渉が進められた結果、御万堂坂上の桑畑の地籍に九九三坪の土地が交換分合等により確保できる見透しとなった。市では坪七百円の線を出しているが、現在の地価では安い向もあるので、地元でプラス何百円かを追加して地主に支払れる様子である。この住宅は二十世帯分だが、二世帯一棟、一世帯の坪数は九坪とされている。

十棟の団地の中央を十文字に、そして周囲全体に四米巾の道路が作られ、三カ所に外燈がつき、数カ所に緑地帯がつくられることになっており、又各戸毎に物干し場まで作られる立派なものである。水道は、長の原自体飲料水のないところだけに重要な問題であるが現在長の原区として市当局に飯田上水道の早期設置を申し込んでいるが、はっきりしないので結局は現在の時又水道を分配する事になるようだ。この住宅の完成は明年三月頃である。入居条件や家賃等の具体的な条件は決定されていない。

随想リレー 85回

工事現場の此頃

桐林　下平貢

私は商売柄工事現場の労働者の内容を良く知って居りますので、余り一般に知られていない現場での飯場の内容について少し申し上げることに致します。まず大事業者の作業上の組織から云うと、各業者は殆ど専属の下請業者をその傘下に抱えて居り、これを称して何々班と云い、作業は全てこれらの業者の手に依ってなされる。

また此の作業班のことを通称飯場とも云うのである。従って佐久間ダムのような大きな工事の場合はこれらの班が十も二十も集まってそれぞれの専門作業を分担するのである。しかし労働基準法ではこうした中間搾取的な親会社の名義に依る形態は許されないので、下請業者である班長は作業長と云い、工事請負いによる利潤はすべて現場支給、或は会社の持株又は特別賞与等の形式で支払い基準法の中間搾取の禁止条項に違反しないようにはしているが内容は純然たる中間搾取に外ならない。次に労働者はこれらの飯場にどのようにして集まって来るかと云えば知人や職安の紹介、業者自体のスカウト等の手に依ってあちこちから集まって来る。中には文字通りの何処の馬の骨とも判らぬ者も集って来る。これら労働者は班の労務係の所で形ばかり労働契約を結ぶその労働契約書には本籍、住所、年令等が記入されるが所によっては両手の指紋をとる所もある。次に会社の指定するヤブ医者の健康診断を受けさせ、これで万事OKと相成る。此の場合事前に身元調査などしないから都合の悪い者はデタラメを云っても判らない。ときたま臭いと思う者について労務係の方から本人の云う所の住所の役場に身許照会をするが大部分は該当者なしの返容が寄せられて来る。こんな労働者が死亡などの場合は遺骨の引取人がなくて仏様も宙に浮くし又労災に依る場合は補償金すら一緒に宙に浮く。労務担当者の頭痛の種となる。従って世の裏街道を歩く者などいくらでも潜り込もうと思えば訳のないのはこんなところに盲点があるからであり、それに又使う方でも前歴がどうとか、身許照会の結果がうまくなかろうと、その本人が真面目に働く限り何も云わないのが此の社会の風習になっているから見方に依ってはお尋ね者の安全地帯と云えるかも知れない。しかし最近は取締りの強化、業者自身の自覚に依って余り賑かな話しを聞かなくなったのは何より喜ばしい限りだ。前世紀的組織形態の中にあって超近代的な土木機械の運営管理、労働基準法に基く労務管理の徹底化等と業界は幾多の問題を抱えたまゝだから此処に働く労働者に何時の日に真の幸せが訪れるのか、現場労働者の前途は相変らず多難と謂わねばなるまい。

六一年十一月
三重県熊野市にて

次のバトンを駄科の市瀬時保さんにお願いします。

共同化のめばえ

長野原

長野原では農業協同化の手はじめとして今秋の麦播きを機械力による共同耕作で行った。機械は県貸与のフォードソントラクターと市所有のクボタ八馬力トラクターで十一月一日より七日まで約二ヘクタールの耕耘、整地播種を行った。尚最近になって婦人の共同畑作りが行われるなど学習の成果は農業近代化の方向に向い今後の発展が期待されている。

【写真は活躍するフオドソントラクター】

第二回公民館秋委講座

今年の第二回竜丘公民館秋季講座は十二月六、八、十の三日間、午後七時より市役所竜丘支所で開講されます。多数御出掛け下さるよう御案内致します。

十二月六日　時局講座　「世界の動き」　南信州編集長　林　武男氏
十二月八日　文学講座　「小説の読み方」　追手町小学校長　池田寿一氏
十二月十日　歴史講座　「竜丘の古墳と歴史」　下伊那史編纂委員　宮下操氏

西部山添に送電線

立石発電所から飯田の中電をつなぐ特別高圧送電線が昇圧して70KVを送ることになり、現在の20KVのルートが変更されて、新しく竜丘地区の西部を通ることになった。その測量に伴う土地立入りが十月十日から、十二月三十一日まで公告されている。飯田地方における電力事情が過負荷の状態にあるためと、三六・六豪雨の際における天竜沿岸地域の支持物に危険を生じたので此の計画になった。

巡回美術展開く

公民館では飯伊美術協議会の巡回美術展（約五十点）を来る十二月十八日、十九日の両日、市役所竜ビ支所を会場に終日開きます。多数御鑑賞下さい。

家庭生活展開かる

飯田友の会主催の家庭生活展覧会は十二月一日から四日迄飯田市追手町小学校講堂で行われます。実に立派なものです。多数の御鑑賞をおすすめします。

読書の秋

読書の秋です。この夜長を有意義にすごしましょう。やゝもすればテレビ、ラジオで毎晩をおくってしまうが、読書することにより、明日の生活の糧になると云われます。少しづゝでも読みましょう。

黄金の針

表題紙に記されている、『おうごんの針をして文をつくる人々の伝記、室生犀星作る』を見たときいかにも『ふるさとは遠きにありておもうもの……』とうたった作者の本らしいと思った。一般に犀星は悪文家であると言われているが、妙にコクのある文章にひっかゝりながら読んで行くうちに、ある一定のヤマを越す毎に、それがちゃんと読者の頭の中に何の抵抗も無く収まり納得してしまうから不思議である。つまり、ふつうの悪文家ではないのだ。この本は円地文子、吉屋信子、平林たい子等、現代日本の代表的な女流作家十九氏の評伝である。おうごんの針をして云々もそこに由来する。一読後、の涼風が吹き通る感あり。

木曾信濃路の魅力

一つ物足りないことがある。飯田下伊那のくだりではもっと下伊那の風物、特に農耕地風景等をとり入れて欲しかった。今や全国に有名なリンゴ並木等は他にも紹介されているのだから割愛してもよかったと思う。だが各頁ごとにある写真も美しいし、文章もキメが細かく、特に巻頭にのせてある「信濃国」の歌詞に続いて、県民性の一端にふれているのは中々味がある。著者は大へん博識の人らしく一読すればずい分教えられることが多い。それも決して固くるしい書き方でなく、豊富な写真を入れての随筆だからサラリと読める秋の夜長炬燵にでもあたりながら手にとる事をお勧めする。大げさでなく、郷土の再認識にも役立つであろう。

秋の夜は長い文化の高い飯田市の皆さんはこの長い夜を読書にテレビに、話し合いに、また×××等に、それぞれ有意義な時間を御過しのことゝ思う。ところが金六百両也の土方仕事で疲れた編集子仲々能率があがらない秋の夜である。今回は文化祭の一環として百号記念行事「新聞の出来るまで」の資料として多彩な新聞を作りたいと云う、エネルギッシュのデキモノですがイカが今年もあとわづか、36・6から立ちあがろう。

一歩前進した活動を

婦人会の動き

核実験に強く抗議

去る十月三十一日私達婦人会員は核実験反対の抗議集会を行い、長野市中をデモ行進致しました。一人一円以上の資金カンパを行い、竜丘地区でも思ったより多くの資金が集り、飯田市としても数人の人が参加しました。

敗戦後の婦人が長い忍従の生活から解放されて立ち上り自由な立場から家庭を、社会を明るくしようとの願いで努力し、先ず大勢の人の前で自分の意見を発表する事、次に自分の生活を記録して、まとめてみると云う、創造的な段階まで進んで来ました。尚、合せて四年前より開始された母親文庫の回覧等によって読書をする事を身につける運動も行って参りました。

一人一円カンパで代表送る

核実験が再び開始されて、今日は福岡で約三十万カウントと云う大量の放射能を検出した。長野県下でも十月末に一万五千九百八十六カウントの放射能を測定した、とか、家人に安心して野菜、果物を食べさせられない、私達の子供は奇形児を産むかも知れない、等と報道されるのを見て、じっとしている事が出来ないで、青空のもとに堂々と核実験反対を叫えて行進し、自己の意志表示をした事は、私達は更に一歩前進したと、つくづく思わされました。十月一日には飯田市で飯伊の母親大会が開催されております。当地区でも一年々々と出席人員が多くなって居ります。

生活につながる読書を

次に十一月十一日、十二日の二日間にわたって篠ノ井で開かれました図書館大会の母親文庫部会に飯伊で三十八名出席し其の中に竜丘地区でも二名出席しましたが、三千人余りの出席人員の中で約八割の二千四百人が婦人であったのには先ず驚きました。大部分の婦人が母親文庫部会に出席された人と思います。生活につながる読書のあり方、本を読んだら読後の処理をどうするか、先ず読書について文を記録し文集を作ろうではないか、等二日間にわたって活発に発言されながら研究されました。つづいて十七日十八日の両日、松本に於て県連婦の研修会が催されており具の後に於て二人代表を送っております。

来る二十七日は飯伊母親文庫の総会を開催する事になって居ります兼ねてからお願いしてありました丸岡秀子先生にやっと来ていただける事になりまして、先生の講演と会員六人の読書に関しての話があります。其の事には当地区でも最低三十人以上の出席をお願いしたいと思って居ります。

二月に地区研修会

未曽有の梅雨前線豪雨の水害で茫然とした有様で三十六年度の前半は何をする元気もなく私達の一番楽しみにしていた旅行も中止致しましたが此れから農閑期になりますと共に元気を取り戻し、皆さんに生活記録を書いていたゞいて、まとめたり、母親文庫も利用して読んでいたゞけると思います。又来年二月中旬には、竜丘地区で研修会を開きたいと計画しております。適当なテキストを得て、読み合って、話し合って見たいと思って居ります。

以上三十六年度の婦人会の事業の前半の特筆すべき事と、後半の計画とを書いてみました。

有名酒類と
魚の用命は
冷凍設備完備の
セ　（株）栄屋
下平商店へ
TEL14　THK18〜5

御贈答に　晩酌に
吉のお酒を
お酒の御用は丸吉へ
TEL47　THK5〜20